

アパレル業から農業へ

「今は就農してよかったなと思っています」。そう笑顔で話してくれたのは、今年、就農2年目を迎える二又さん。昨年はハクサイやナスなど露地野菜を中心に生産。今年はナスとトウガラシをメイン作物に据えて生産する予定です。

就農前から調理師免許を取得するなど、もともと「食」に興味があったという二又さん。就農のきっかけを伺うと、「おじいちゃんとおばあちゃんが農業をやっていて、自分でも仕事が休みの日は、趣味で青パパイアを育ててみたりしていました。今思えばもともと農業に興味はあったんだと思います」とのこと。就農前はアパレル会社に勤めていたのですが、「自分の性格上、接客業よりも自然を相手にのびのびと仕事をする方がいいのかなど。それと自分の周りには自営業の人が多くて。自分で経営したいと思ってたのもありますね」と、振り返りながら話してくれました。

就農するにあたって安定した収入が得られるか不安もあったそうですが、市のチャレンジファーマーに昨年申し込み、農業の基礎を学びながら結果を出していくことで不安は次第に減っていったそうです。

就農後の充実した日々

「農業には夢がありますよね」。二又さんに農業の魅力を聞くと、生き生きとした表情でこう答えてくれました。今年からメインで生産予定のナス、トウガラシについても「チャレンジファーマーで視察をさせていただいた農家さんに影響を受けました。農業に取り組む姿勢もそうですが、質の高い暮らしをされている。そこにあこがれたというか、素直にカッコいいなって思いました」と、生産を決めたきっかけを話してくれました。

二又さん自身も、就農してからの

やればやった分、結果として返ってくる。

だから農業には夢がある。



二又さんが昨年作った農作物の数々。試行錯誤しながら作ったとは思えない出来栄で、直売所へ1日に何度も追加で陳列した日もあったそう。

希望の光



農業者が減り続ける中で、新たに農業を始める希望の光も現れています。ここでは、新規就農をされた皆さんに、就農の理由、農業の魅力を伺います。

2019年 就農
ふたまた たくと
二又 拓人 さん (24歳)

《営農状況》
地区：関谷
種別：ナス、トウガラシ
規模：35a

生活の質の変化を感じています。「会社員時代は週5日、決まった時間に出勤していました。でも農家は一日の中でも自分で仕事を組み立てて、自由に時間を使えます。朝早くから仕事を始めればお昼までに一日の仕事が終わらせることもできますし、朝弱い人であればお昼から作業を始めることもできます。生産する野菜によっても時間の使い方はさまざまです、ナスの場合は繁忙期の夏に頑張る必要があります。冬は休むことができます。自分の場合は、ナスの繁忙期が終わってからトウガラシを生産することで、繁忙期が重ならない作物を作るように調整しています。

す」と就農後の自由な時間の使い方を教えてくれました。

昨年は主に直売所で販売をしていたという二又さん。追加で陳列しているときにお客さんからの「若いのにすごいねえ」「お兄ちゃんが作ったの!? 買っていくね」という生の声が聞こえると、「やりがいを感じるし、暑い中の農作業でくたくたになった身体からだの疲れも忘れてしまう」と語ってくれました。

農業に惹かれ、行動し、その先の夢を追いかけている二又さんのこれからに注目です。